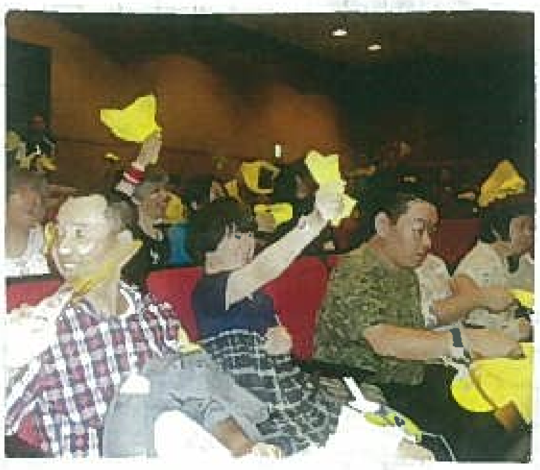
第208号(平成元年6月創刊)　やまびこ通心　平成26年8月29日(金)

やまびこ通心
7・8月号
やまびこ通心社

大分市交流会



ノリノリでバンダナ回してます♫♪

8/20(水)にホルトホール大分にて、大分市知的障害児者交流会が行なわれました。ステージ上ではさくらチアーズによるチアダンスと、望月ゆうさくさんによるジャグリングショー、アキラとヒロトの大道芸フェス、アルケミストによるハートフルコンサートが行なわれました。ジャグリングでは、あまり縁のない中国ゴマを使った沢山の技に会場からも歓声が!!大道芸はマリオゲームに見立てたストーリー性のある物で、3つの箱を使い空中で順番を変えるシガーボックスや最大で7個のボールを使い2人で交互に行なうジャグリング等ビックリする技を沢山見る事ができました。知っているキャラクターの登場に、皆さんも楽しめたのではないでしょうか。

最後のお楽しみ抽選会では、個々に配られた団扇を握りしめ自分の番号と発表された番号が一致するか真剣な顔でにらめっこをしていました。幸福会からは数人の方が3等や4等を頂きなんと1等は…本館の溝口元子さんが見事当選されました!!ととても嬉しかった様で、涙を流し喜ばれていました。普段見ることのない出し物を目の前で見ることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。参加された利用者・保護者の皆様お疲れ様でした。(大久保)

なんと1等当たりました!!!

ミュージックセラピー in 生活介護

多機能型事業所やまびこ広場の生活介護事業においては、今年度の活動メニューの一つとして新たに「音楽療法」というものを取り入れて行っています。実際には6月から月間のスケジュールに組み込んでおり、月に2回のペースにて行なっている状況です。

講師には外部の方で志賀先生と後藤先生の2名の講師に来ていただいており、志賀先生から歌や楽器演奏などに関して進行をしていくと共に、後藤先生に曲の演奏をしていただいています。利用者さん側の反応ですが、初回の時からよいリアクションをされている方が多く、その様子は回を重ねていくに連れてどんどん広がっていき、まだ6回の実施ですが既に定着しているように感じるくらいです。活動の内容としては、馴染みのあるような童謡系や昭和から平成に至るまでの歌謡曲などの楽曲を取り入れたりもしながら楽器を使ってリズムをとっていったり、曲を途中で止めた時に合わせて楽器を鳴らす、又は体を動かすのを止めたりといったことなどを行なっています。

利用者さんが笑顔で歌い、真剣に楽器を叩く・鳴らすなどの姿が見られ、本当の意味で個々が参加しやすくとても有意義なひとときです!!(平野)

フレンドの夏

夏といえばイベントが目白押しですが、今年もフレンドは夏を満喫しました!

まずは、そうめん流し。前日に、直径10cm・2m越えの竹を半分に割るところから準備スタート。使い慣れない鉈に苦戦しながらも割ってしまうと気分が上がります。一口分のそうめんが流れてくると、みなさん上手に箸ですくい上げて美味しそうに食べていました。次に夏祭りでは、射的や魚釣り、ヨーヨー釣りをしたり、カキ氷、チョコバナナ、アメリカンドックを作って食べました。カキ氷は自分でカキ氷機を回して、好きなカルピスをかけて大満足。昨年好評だったプールも何とか晴天に恵まれ、水鉄砲でかけ合ったり水に潜ったりして楽しく過ごすことができました。

フレンドといえば、なんとなく畑のイメージがあるかもしれませんが、今年は「ころたん」というミニメロン作りにも挑戦しました。手のひらサイズとのことでしたが、両手サイズほどの大きいメロンも収穫できて、来年はもっとたくさん植えたいね!と話しています。

楽しかった暑い夏も過ぎようとしています。秋には、さつま芋や里芋の収穫があり、食欲の秋になりそうですね。(首藤香)

ときめき作品展

～準備中～

11月13日~17日に、大分市「アートプラザ」・アートホールにて開催される「ときめき作品展」に今年もやまびこ広場、本館・新館の書道クラブ17名の作品を出展する事になりました。

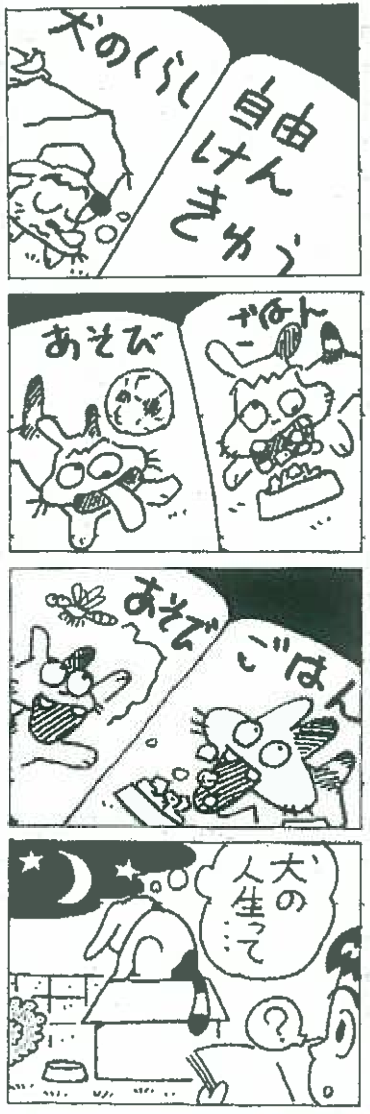
今年も作年同様に、みなさんの合作として工芸で作った葉書に、書を書きそれを貼り合わせて、大きな文字を5つ表現し創作しました。大きな文字にする前の葉書一枚一枚は「夏」をイメージした文字を書いています。「ソーダ水」や「向日葵」など、川邉先生が書いて下さったお手本を、みなさんがそれぞれ自分の思う「夏」をイメージし、文字を選んで書きました。ある方の書いた「夏雲」は、夏の晴天の空に浮かぶ雲の様に、葉書いっぱいにダイナミックに書かれていたり、またある方は優しい字で夏の花を書いてみたりと、どれも素晴らしい作品になっています。そんなみなさんの思いの詰まった作品が「友」・「花」・「絆」・「生」・「光」として、また一つ一つ素晴らしい作品に仕上がっています。この完成した大きな文字を見ていると、皆さんの力が伝わってくる気がします。

とても心のこもった作品に仕上がっていますので、機会があれば是非会場に足を運んで観て下さい!!実際に会場で観て頂くと、スケールの大きさに感動すること間違いなしです。(横山)

ぜひ、観にきてくださーい!!

ごんとゲン

⑱③　高寺えん



社会福祉施設学校職員合同研修会

8月2日(土)に新生支援学校にて、福祉施設職員、学校教職員合同研修会が開催されました。これは毎年行われており、教員と施設職員が共に研修を行うことで理解と支援を深めることを目的としています。講議方式と分科会方式を交互で行っており今年は分科会方式で行われました。分科会は「楽しむ」「はたらく」「暮らす」の3つの分科会に分かれて行われ、私は「楽しむ」の分科会で、幸福会の概要とフレンドの活動の様子を映像等を使用して紹介しました。

発表は、私と支援学校の先生が行ない、今の学校が取り組んでいることを知ることができました。特に驚いたのは、アイパッドを使用しての取り組みでした。各発表後のグループ討議で学校を卒業した生徒さんが、利用している施設のパソコンを見たそうにしていた姿があると話題になりました。施設も今後の卒業生を迎えるにあたり、最新のデバイスを導入することも考えた方が良いかもしれませんね。

短かい時間でしたが充実した研修会になりました。幸福会からも多数の職員が参加して、しっかりと学んでいました。私自身は、やや早口トークになったのと全部を伝えられなかったので…次回は頑張るぞー!!（武原）

近藤さん Happy Wedding

2014年7月5日土曜日

茅野裕一郎さん・真衣さん(旧姓近藤さん)の結婚披露宴がオアシスホテル21階で行われました。前日は大雨で天気を心配していましたが、お二人を祝福しているかのように青空が広がりとても見晴らしの良い会場でした。披露宴会場は、ひまわりが沢山飾られていました。

はじめに、色内掛けで登場!!色内掛けは、黒地に赤と金の柄で豪華絢爛!!和傘を持って温かな拍手に包まれての登場でした。余興では、お二人の大学時代の共通の友人が会場中を巻き込んでのサプライズ・やまびこグループからのお祝いメッセージの時は、うれしそうに笑ったり感動で涙を流し会場中が温かい雰囲気に包まれました。カクテルドレスは、色内掛とはイメージがガラリと変わりかわいいオレンジ色のドレス・頭には花の冠をして登場し各テーブルにキャンドルサービスが行われました。穏やかで優しい雰囲気の裕一郎さんと笑顔の絶えない明るい真衣さんらしく、笑いあり涙ありでとても楽しい披露宴でアッという間にお開きの時間になりました。お見送りの時は、やまびこ広場の利用者が紙すきをしたカードをゲストの方々へプレゼント。明るいお二人で楽しい家庭を築いて下さいね。おめでとうございます♥(池辺)

安部さん♡塩田さん Happy Wedding

7月26日(土)、安部勝貴さん・真菜美さんの結婚式がエルセルモ大分にて行われました。今月は雨が降っていることが多かったのですが、見事な晴れ間が広がりお二人を祝福しているようでした。

神秘的なチャペルでの挙式では、新婦が純白のウエディングドレスで登場すると会場内で「綺麗!ステキ♥」と称賛の声が響き、参列された男性陣の目がハートになっていました。新郎は緊張の表情でしたが、新婦が登場すると男らしい表情に!二人ともとってもお似合いでした!!披露宴では花宮施設長の素晴らしい祝辞を始め、池田施設長の乾杯でスタート!!

やまびこグループからは利用者さんのお祝いメッセージ♣サプライズとして私が花束を持って式場に入ると、二人とも驚いた表情で喜んでいました。その後友人からのDVD、新婦のお色直し(オリーブ色のドレスでした)、ケーキ入刀と続き、最後は真菜美さんからご両親への手紙で目に光るものが…勝貴さんは真菜美さんに寄り添い、その姿がお二人の将来を物語っているようでした。

大勢の方に見守られ、終始笑顔が絶えないお二人。これからもお二人で力を合わせて新婚生活を楽しんで下さい。末永くお幸せに!!(首藤浩)

夏至の朝

朝倉街道1

古城　均

「え？　何？」

「いいえ、何も——」

「何か云いかけたんじゃない？」

「いいえ、何も——」

由佑子（ゆうこ）は同じこたえを二度、同じ抑揚で繰り返した。会話はまた途切れる。

真一は、いやおうなく、二人の間の重い空気を感じてしまう。

真一の運転する1トントラックは、時折信号に停止し、また発進する。エンジン音と走行音が、うるさく響く。車は太宰府近くの土産物店の前で由佑子を乗せ、南東へ走り続けていた。

道は『朝倉街道』とよばれ、旧街道の名残で、何キロもまっすぐに続いている。福岡県の東南部、甘木、朝倉、浮羽、杷木を経て、大分県日田市へと延びている。

行く手は、もうそろそろスモールランプを点すころなのだが、昼の暑熱が残っているのか、白く輝きながら、ゆらゆらとかすんでいた。

街道沿いは、古びた民家や商家の低い軒が、またときおり神社の生け垣などが、田畑や、空き地に途切れながら、両側にずっと続いていた。

車の窓に縁とられ、暮れなずむ初夏の景色は、ひとつひとつ近づいては遠ざかってゆく。真一には、車のまわりを流れすぎるものがみな、止められない浅い夢のように感じられる。すべてがあわあわと浮遊し、後ろへと過ぎ去っていく。

そして一方でこの感覚は、昔二人で体験したことが、確かにある、という強い既視感をも、伴っていた。

「ふよう、カンナ、おおまつよいくさ」

「え？……」

「ふよう、カンナ、ひまわり、またカンナ、きょうちくとう」

真一の耳に今度は由佑子の声がはっきりととどいた。だが彼女の声はどこか遠い過去から響いてくるようだった。

視界の先からゆっくりと近づいて、車窓近くで素早く後方へと消えてゆく初夏の花々は、本来は明るく強く、そしてあでやかな花ばかりなのかもしれなかったが、今は真一には、宵を迎えて重く沈んだ顔で、ひっそりと身仕舞いをしようとしている気がする。

あるいはそれは、二年前まで恋人同士だった二人が過ごし、そして喪失してしまった輝くような日々の、幻影であるかのようだ。

「また……ふよう、カンナ、あさがお」

由佑子の弱くつぶやくような声に、真一は、彼女も同じ想念の中にいるのだろうか、と思う。何か云わなければ——だが言葉が出てこない。

真一はカーラジオのスイッチを押し、ダッシュボードからタバコを取り出した。

ラジオからはボブ・ディランの唄が流れてきた。ボリュームを少し上げる。真一はそれほどファンというわけではないが、この曲はよく知っていた。『ブローイン・イン・ザ・ウインド』（風に吹かれて）

彼の唄声は、今年（一九七八年）の二月に初来日し、武道館ライヴがひらかれて、さらに頻繁にラジオから流れるようになっていた。

車はまた信号停車した。

真一はタバコに火を点け、由佑子に配慮するように運転席側の窓の外に煙を吐いた。

「アッ！」

由佑子は大きな声を上げた。ほとんど叫ぶようだった。自分でも驚いたのか、あわてて両手で口を覆った。彼女は真一の指に挟まれたタバコを見つめている。

真一の思考は停止する。彼女はこのタバコに強い衝撃を受けた——どうしてか、よくわかる。だがそれが今の自分にとってどういう意味があるのか、わからない。

二年前まで真一は決してタバコは吸わなかった。それどころかほんのわずかでも誰かのタバコの煙が香ってくると、かなり激しい嫌悪感を言葉と全身で表した。

由佑子の両腕が拳を口元に当てたまま、小刻みに震え始めた。泣いている。

真一の胸を小さなトゲが鋭く刺す。

車はまた発進する。

少し前まで右手彼方に白く輝く稜線を見せていた東背振山も、今は、黒く沈んで後方へと遠ざかっていた。

つづく

＊＊おことわり

今回は珍しく長編小説で、しかも恋愛小説です。実はこの小説は三十三年前に、首藤幸一園長の親友山田誠司氏主宰の「オレンジプレス」という雑誌に連載スタートしたものの、その雑誌そのものが休刊となってしまい、お蔵入りになったものです。四十年前の大学生を中心に描きます。リニューアル、今回大幅加筆で再登場です。